

北千葉道路の概要

常磐自動車道と東関東自動車道のほぼ中間に位置し、市川市と成田市を結ぶ全長およそ43kmの道路です。東葛飾、北総地域の東西方向の骨格となる道路であり、首都圏北部、千葉ニュータウン、成田空港を結ぶことにより、国際競争力の強化を図るとともに、地域間の交流連携、物流の効率化など、地域の活性化に寄与することが期待されます。

現在、北千葉道路全長43kmのうち、印西市から成田市間の13.5kmについては、国と県が協同して整備を実施しており、これまでに印西市若萩から成田市押畑間の9.8kmが暫定2車線で開通し、残る成田市押畑から大山間の3.7kmについては、県が整備を進めています。

また、未整備の市川市から鎌ヶ谷市間の約9kmを含む市川市から船橋市間の約15kmについては、令和2年度に県による都市計画変更手続きが完了し、このうち、市川・松戸の一般部3.5km、専用部1.9kmについては、国の直轄権限代行事業として令和3年度に事業着手されました。



全体平面図



(1) 成田空港等の拠点への広域高速移動の強化

- 北千葉道路は、都心と成田空港とを結ぶ最短のアクセスルートとなり都心と成田空港間の時間短縮効果が期待されます。
- 慢性的な渋滞が発生している東関東道や京葉道路の交通量が北千葉道路に転換されることにより、湾岸部の渋滞緩和も期待されます。
- 北千葉道路周辺には、物流施設、商業施設等が多数立地しており、北千葉道路の整備により高速道路インターチェンジまでのアクセスが容易になることで運搬時間が短縮され、生産性の向上が期待されます。

(2) 周辺道路の渋滞の緩和

- 市川市と鎌ヶ谷市を結ぶ国道464号及び並行する県道等では、交通量が多く慢性的に渋滞が発生しており、新たな幹線道路となる北千葉道路が整備されることで、交通が分散され、渋滞の緩和が期待されます。

(3) 災害時の緊急輸送ネットワークの強化

- 航空搬送拠点に位置付けられている下総航空基地とのアクセスが強化されるなど、首都圏の防災機能が強化されることが期待されます。

北千葉道路の概要



- ・令和3年度より、市川市堀之内から市川市大町までの一般部3.5km及び専用部*1 1.9kmの区間が、北千葉道路（市川・松戸）として、国の直轄権限代行事業*2により、事業が進められています。
- ※1：自動車専用道路を専用部と呼んでいます。
- ※2：一般国道464号の道路管理者である千葉県に代わり、国が道路整備を行います。



全体平面図

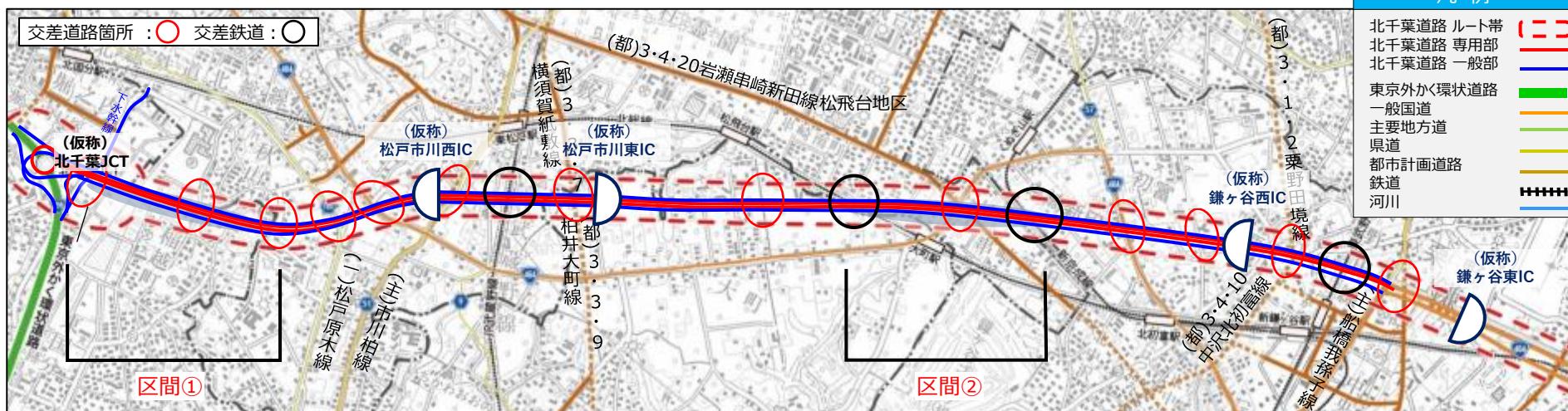


北千葉道路の概要

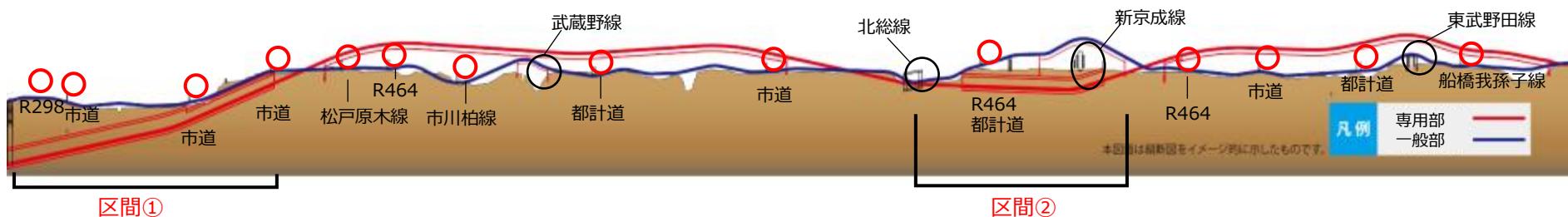
～整備イメージ～

外環道～鎌ヶ谷

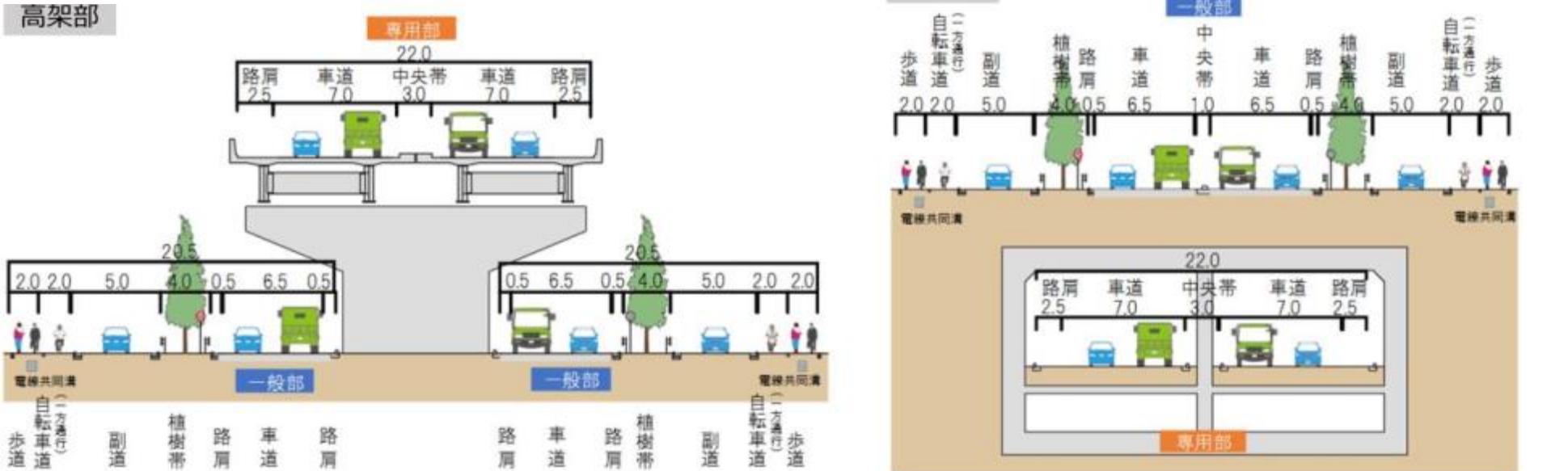
■ 平面図



■ 縦断図



■ 標準横断図



※次の区間については、現地の状況や構造基準等を踏まえ、地下構造を基本に計画する。
 ・外環道～県道松戸原木線までの間(約1.6km)【区間①】
 ・北総線交差部(松飛台地区約1.7km)【区間②】

鎌ヶ谷～船橋



出典：R1.7 都市計画の原案説明会パンフレット